

未来をひらく

# 竜爪山 九条の会

りゅうそうざん  
きゅうじょうのかい

会報 2011年3月発行 通巻19号

発行 / 竜爪山九条の会・事務局

〒420-0812 静岡市葵区古庄3-19-34 五井卓方

TEL・Fax 054-264-4918

E-mail ryusouzan9@plala.or.jp

URL <http://www3.plala.or.jp/ryusouzan9/>



講演される北野豊さん 西奈生涯学習センター 2階ホール

4周年のつどい  
開かれる

「竜爪山九条の会」発会4周年記念の集いが、3月6日(日)午後1時30分からリンク西奈で開かれ、42名が参加しました。

はじめに事務局長の五井卓さんが、挨拶をかねて、情勢や会の状況などについて報告し、続いて本会事務局の一人である北野豊さん(夏目漱石研究家)が、「漱石と憲法九条」と題して記念講演をおこないました。休憩をはさんで、長田栄一さんが「平山に疎開していた頃」の体験を語られました。その後、参加者の感想・発言があり、「九条を守ろう」という替え歌も披露されました。また、松山名物の「坊ちゃん団子」の差し入れがあり、漱石先生は松山のことをよく言っていない、云々でひとしきり盛り上がりました。

講演要旨

# 漱石と憲法第九条

講師 北野 豊



漱石と言えば、『吾輩は猫である』  
『坊ちゃん』『三四郎』といった小説  
や、千円札の肖像を思い出す方が多い  
でしょう。本日のテーマは「漱石と憲  
法第九条」です。漱石が生きたのは、  
大日本帝国憲法の時代で、漱石は日本  
国憲法ができることなどまったく知ら  
なかった。したがって、直接的には、  
漱石と日本国憲法はまったく関係ありません。それでは、今  
日の話はもう終わってしまうわけですが、今日、私が「漱石と  
憲法第九条」というテーマでお話しするのは、もし、漱石が  
今、生きていたら、「日本国憲法第九条」を守ろうと、全国  
を講演してまわっていたのではないかと、思うからです。漱  
石からちょうど百年後を生きる私たちは、漱石の思いを受け  
継いでいかなければならないのではないのでしょうか。そんな  
思いで、今日の講演を引き受けました。これからの話の中  
で、ちょっと違った漱石と、出会っていただければ幸いです。

漱石はデビュー作『吾輩は猫である』以来、多くの作品で  
戦争を批判する文章を書いています。『趣味の遺伝』では、  
【天下に浩さんの事を思っているものはこの御母さんとの  
御嬢さんばかりであろう。余はこの二人の睦まじき様を目撃  
する度に、將軍を見た時よりも、軍曹を見た時よりも、清き  
涼しき涙を流す】。『三四郎』では、日露戦争に勝っても日  
本は【「亡びるね」】。などなど。

漱石から百年後を生きる私たち、日本国憲法のもとで生きる私たちは今、漱石から「何を学ぶべき」なのでしょう。私は、大きく二つの「学ぶべきこと」があるように思います。一つは、戦争に正面から向き合い、戦争に正面から反対していくことです。黙っていても、『こころ』が問いかけるように、「まさに、他人を批判する何の資格もない人間になって」しまいます。漱石は、戦争につながることはすべて拒否しました。徴兵も、軍事教練も、戦争賛美も、国家的道徳も。こうした思想は、日本国憲法、そして第九条の底流にある思想です。

漱石は、大日本帝国憲法下で、こうした思想を堂々と主張したのです。もう一つ。学習院における講演『私の個人主義』において強く語りかけられること、私たち一人一人が、「高い道徳性」を身につけることに、もっと真剣になるべきだ、ということです。これは、忘れられがちだけれど、とても重要です。そして、何より「私自身」の問題です。日本国憲法があるから、第九条があるから、平和が守られるのではない。一人一人が、人間として高い道徳性を身につける努力を、つねにおこなっていかなければ、平和を保つことはできない、ということです。民主主義にもとづく制度があるからといって、人々が平和に安心して暮らせるという保障はない。政治家も財界の人も含めて、市民一人一人が、人を愛し、尊重する、高い個人道徳を身につけてこそ、はじめて平和が実現するのです。ここに、平和を実現していく「カギ」が隠されているように思います。

(この講演では、『こころ』に隠されたメッセージを私なりに解き明かし、また、漱石養父<sup>しおばらまさのすけ</sup>塩原昌之助と静岡との関わりについてもお話しいたしました。)

「お配りしたレジメでは、塩原昌之助のルビが「しょうのすけ」となっております。正しくは「まさのすけ」です。お詫びして訂正します。」

# 講演の感想

感想をお書き頂いた  
16名の皆さまの全文です。



一見どうつながるかなと思ったが、漱石の考え、戦争には一貫して反対して、特に個人道徳を重んじる考えは同感しました。それにしても北野先生は良く調べてるなあと感心しました。私も、もう一度読んでみたいと思いました。以前とまた違った読み方ができると思います。

長田さんの実体験の話もよかったです。体験している話、もっと聞きたい。伝えて下さい。私たちも伝えたい。50代男性

漱石の広い視野で考えることができそう。もう一度、作品を読んでみたい。茶菓の接待、感謝。戦時中の実話、歌もよかったです。70代女性

子供の頃から夏目漱石の小説には親しんでいましたが、平和と深いかわりのある作家とは思ってもありませんでした。改めて漱石の偉大さを知りました。ありがとうございました。70代

最初チラシを見た時、明治時代の夏目漱石と憲法9条??、と思いましたが、話を聞いていて謎が解けました。自分なりにやれる所からまわりに広げていきたいと思います。本日はありがとうございました。60代男性

漱石といえば今までは明治の文豪という通り一返の知識でした。本日講演を聞いてあまりのユニークな解釈に目からウロコの思いです。大変勉強になりました。60代男性

講師の北野さん、本当に詳しく調べられているのに驚きました。漱石は好きでだいたい読みました。しかしそういう考え方で読んだことはありませんでした。あの時代、思い切って発言したとも言えるし用心してぎりぎりのところで発言したとも思えます。漱石はやっぱり秀才だと思います。70代

北野先生のお話大変興味深かった。70代女性

漱石の生きた時代の「生き方」のむずかしさ 運動とのかかわりについて考えさせられました。マスコミの大宣伝の中で、「個」の主張をもち、貫くことが出来る状況をどうつくるか。学習がそれを保障するのでしょうか。70代男性

漱石の作品を、改めて読み返してみようと思いました。60代女性

講師(北野さん)の漱石をめぐる知識の豊富さ、深さ。文学だけでなく、思想、人となりまで本当に詳しくて感心しました。「漱石の時代を」を通して日本の歴史を学ぶことが出来ました。もう少しゆっくり話してほしかったです。70代女性

北野先生が松島トモ子さんのファンとの話。漱石先生は落花生が好きで隠れ食いをしたという話に、とても親しみを覚えました。50代女性

再度、漱石の本を読みなおしたいと思いました。よく熟読してらして感動しました。60代女性

「なぜ逮捕されなかったのか？」の設定がすてきだった。個人主義の寂しさの部分をもっと話してほしかった。(補聴器を忘れたためよく聞き取れなかった。レジメに助けられた。)70代男性

高校時代、そして二十代の頃、漱石は大好きな作家でした。愛読した事もすっかり忘れ、今日、改めて講演をきいて、ただ読み流すのではなくその読み方によって、いろいろの発見がある事に感心しました。そして、東京のその土地の楽しみ方、なるほどと思いました。60代女性

#### 講演の感想 アンケートの結果

アンケート回収率38% 16名 / 42名  
良くわかった 10名  
だいたいわかった 5名  
難しかった 1名

# 穂積神社に疎開していたころ

長田 栄一



長田栄一さん

私は、「しずおか憲法9条の会」の事務局で仕事をしながら、「竜爪山九条の会」が元気に活動されていることを知っていました。西奈小の卒業ですから、機会があれば、お話を聞かせていただきたいと思っていました。今回初めて参加させていただくことができ嬉しい限りです。1933年、昭和8年生まれの満77歳です。

昭和20年3月末、鷹匠町から平山へ6人兄弟の長男として母親とともに疎開しました。1年半ご厄介になりました。庵原郡西奈村立西奈国民学校平山分教場へ6年生として1年間通いました。

「九条の会」での発言ですから、戦争が生む悲惨さと貧困について平山の暮らしを通しての発言をしたいと思います。

## 穂積神社について

疎開先は穂積神社の神主さんのお宅の納屋の8畳一室でした。神主さんのお宅は、ご子息が遠方で役職につかれ、60過ぎの老夫婦でした。おばあさんは小利口な孫として私を可愛がってくれました。月に二度、竜爪山の社に出向き、箱に入った賽銭と「お米」などを小袋に入れて帰ってきました。参拝者は、平山の社務所で御札やお守りを買って登山、武運長久を祈りました。

敗戦前は、出征兵士、無事にもどった兵士が何人かの家族とともに訪れました。人数は少なく、賽銭やお米は少しか、また、なかつたりで社も荒れ放題でした。

戦後は、訪ねる人は皆無とっていいくらいでした。

## 空襲の恐怖

6月19日深夜の静岡大空襲は夜半から火の手があがり、真っ赤に空をこがしました。山の中段から炎々と燃える静岡を見て父親がどうなったか、うまく逃げられたかなど家族で震えながら夜を明かしました。

5年生のとき、城内小学校で隣の34連隊めがけて米軍の戦闘機が低空でおそい、パイロットの顔がはっきりと見えた時の恐怖、7月31日夜の清水への艦砲射撃の轟音、頻繁な米軍機の来襲は緊張の連続でしたが、疎開先では、幾分和らげたのは幸せでした。

## 親友の不発弾での死亡

平山分教場...いまは埋め立てて「火の見やぐら公園」になっているところですが、8月15日、夏の暑い日、全校生徒が「玉音放送」をききました。戦争が終わったことに子どもたちは「ほっと」していました。当時の先生は望月染蔵、望月ていこ、若い奥田の各先生で2部授業、生徒数は50人くらいだと思います。

それから旬日しての雨あがり、平山・則沢のやまあいにもドカーンと大きな音が響き、こだましました。「けんじとたきが死んだ」とつたえられました。則沢橋の川べりで不発弾で遊んでいるうちに爆発し、2人が即死、一人が重傷だということでした。現場には遺骸はすでにありませんでしたが、樺の木にピンクの肉片が付き、それを同級生がはがし手にとり、ともに涙しました。

## 貧困の出発点と食糧難

「産めよ増やせよ」のスローガンは、養育は国が責任をもつのではなく、私の家は、洋品屋を営んでいました。生活は

そこそこでした。しかし国が戦争体制をとり、昭和18年企業整備令で業者が淘汰され商売は続けられなくなりました。

疎開してからは、母親が裁縫ができたことから、平山や則沢の主婦などから注文を受け、じゃがいも・カボチャなどと交換していました。7人の子は、タンポポ、フキ、タケノコ、メジロが食べ残した半分かわいた小さなミカンなど、山道の野の草などを食べ飢えを凌ぎました。採ってきて灰汁抜きせず食べることから体調をいく度もこわしました。食糧配給日には学校を休み、瀬名のいまのJAまでとりに来ていました。

## 戦争の傷は生涯



戦争による貧困は生活を破壊し、とりわけ少年期の子供の希望を奪いました。

旧制中学に入った私たちは、学制変更で高校併設の新制中学に編入しました。ところが、同期に入った少くない子らは高校へすすめず、「併設中学卒」となり、小学校、中学の修学旅行の経験なし。中学・高校の同窓会名簿にも掲載されない学んだ友人たちと隔離されている状況が続いています。

また、教師が「私の部活の生徒はなぜ早死になのだ」と嘆いたように、戦後食糧難のなかでスポーツに熱中した若者は、食べ物不足で精神主義などのあらわれで早死にする傾向がみられます。

## 平山の一年は生き方を教えてくれた

私の育った環境は、私の生き方を自然と身につけさせてくれました。

先日65年ぶりに訪問した平山は、第2東名の高架橋が山あいの空を圧していました。さながら戦時中のB29の空襲を連想させました。竜爪銘茶に影響はないのかと思いました。

9条を守り環境を守る。平和で豊かな暮らしができることをねがいながら、戦争の芽を摘む勉強にもがんばるとの思いをもちながら戻ってきました。



2010年12月30日  
未明、ノンちゃん  
は旅立った。

飼い猫に比べると膝に乗せられることもなく、「かわいそうな生涯だっ

たなあー」と思うと、この日は一日泣いて過ごした。

よく食べる雄猫だった。「きたならしい猫だねえー」とか言われたが、人間の評価などわかるはずもなく、モノともせず、食べることにのみ執着していた。温かい冬だと思ったが、正月近くなると寒さが身にしみてきた。ノンちゃんの小屋も段ボールから発泡スチロールに替え、この下にビート板を2枚敷き、座布団1枚と父が愛用していた純毛の腹巻きを敷いて、彼が入れるだけの入口を作り、寒さに備えた。

だいぶ前から耳も遠くなっていたし、目やにもよくでたので、よく顔をふいてやった。これが人間がしてくれる唯一のスキンシップと思うのか、嫌がることもなく静かにしていた。本人も二本足で立っては、自分のお腹をなめまわして身ぎれいにしてもいた。「あまり警戒心もないところを見ると、元は飼い猫だったんじゃないの」と、猫好きな友人は彼の頭をよく撫でてくれていた。こんな時、彼は幸せを感じたんだろうと思う。

最期の三日間は食欲も落ちてきたので、彼のベッドの下にホカロンを入れてやった。そのせいか、のびのびと、剥製にされる動物のような最期の姿だった。彼と心通わせた数年間に感謝をし、庭に咲いていた野水仙で、彼の最期を飾った。市に連絡すると、黄色いかわいい猫バス(犬・猫)がきて連れて行かれた。

「ノンちゃんがいなくなって寂しいねー」と、近所の奥さんが声をかけてくれた。今も、庭に咲く野水仙を見ると「のら猫のノンちゃん」を思い出す。



全面に、掲載者の氏名が入ります。

メッセージが入ります。



読賣新聞静岡県版 全面(1面)  
意見広告(試案)

メッセージが入ります。

憲法第9条、  
条文が入ります。

憲法9条こそ戦争の抑止力です

静岡県内「九条の会」の賛同団体名がはいります。

# あなたも意見広告に ご参加ください

掲載文は以下の三つです。

“ありがとう” 憲法 9 条  
これからも戦争しない国に  
憲法 9 条こそ戦争の抑止力です

掲載日は

## 4月30日(土)朝刊

です。

「ぬまづ憲法9条の会」の呼びかけにより、静岡県内の「九条の会」が協力して、読売新聞朝刊に意見広告を出すことになりました。主催団体名は「意見広告掲載実行委員会」です。募集目標は1700人、本会の目標は100人です。(3月10日現在、県下で賛同している会は42団体)。

お申込は郵便振替用紙をご利用下さい。または、チラシの申込書にご記入の上、掲載金をお近くの担当者にお支払い下さい。なお、掲載者の氏名は実名に限ります。

掲載金  
一口500円

現在、賛同者は25名です。すでに申込まれた方には、重複のお知らせになりますこと、ご了承下さい。

皆さまの参加をお願いいたします。

銀行名	ゆうちょ銀行
口座番号	00810-3-88504
口座名称	リュウソウザンキュウジョウノカイ 竜爪山九条の会

# 会への要望

講演会のアンケートより

小さな部屋での学習などの積み重ねを主として、ホールは1年に1回位で、講師も「時事的」な話出来る人などを考えたらと思います。

ときには映画などはどうでしょうか。



もっと九条の会の輪を広げて、各地域で小さな話し合いや学習会を持ったらよいと思います。

過日、藤枝で『コスタリカ 軍隊をすてた国』の映画と足立力也さんでしたか、コスタリカから帰国した翌日というのに講演を下さいました。司会は高校生。会場の大半といたいほどの若者、高校生・中学生の姿もありました。抑止力をどうすると現実問題を突き付けられると動揺する昨今、視点を変え、子どもたち若者たちをまきこめるような企画が出来るととてもよいと思いました。映画の中で六人の男の国(?)でしたか、絵本の内容もわかり易く訴えるものが多かったようです。映像は効果的でした。

もっともっと、会員を増やしたいですね。平和への想いを真剣に考えたいです。会員が興味を持てることを探したいと思います。

竜爪山九条の会は何をしているのかな。もっとアピールしたらどうか。年1回の講演では物足りない。何よりも会員を増やすこと。意見広告をもっと増やしたい。

竜爪山九条の会は、4歳になりました。講演会の垂れ幕を書いてくださる小林さんの力強い筆文字と村瀬さんのお庭のミモザが会場を盛り立ててくれました。八幡からお越しいただいた長田さんの疎開体験談は貴重なお話でした。北野さんの講演、本邦初公開もありました。続編をご期待下さい。遅くなりましたが、三周年の講演(水野茂さん)全内容をホームページに掲載しました。何気ない出来事など、お気軽に投稿をお寄せ下さい。

寺井

編集後記